

令和5年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果について

宮城県教育委員会

【目次】

1	実施状況	・・・	P 1
	(1)	調査の目的	
	(2)	調査実施期日	
	(3)	調査対象者	
2	調査結果の概況	・・・	P 2～10
	(1)	「子供の学びを支援する5つの提言」に関連する事項	
		① 改善傾向が見られるもの	
		② 課題が見られるもの	
		③ 児童生徒と学校の認識にかい離が見られるもの	
	(2)	災害（地震・津波）の影響に関連する事項	
	(3)	基本的な生活習慣に関連する事項	
	(4)	自尊意識・規範意識に関連する事項	
	(5)	地域との関わり・ボランティア活動等に関連する事項	
3	今後の対応	・・・	P 10

1 実施状況

(1) 調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより、児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また、各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

(2) 調査実施期日

令和5年6月26日（月）から令和5年6月30日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

(3) 調査対象者（仙台市を除く県内の小中学校及び義務教育学校、支援学校に在籍する該当学年の児童生徒）

対象	調査事項	実施校	参加児童生徒数（参加率）
小学校第5学年の全児童	生活習慣	237校	9,092人（90.3%）
中学校第2学年の全生徒	学習習慣	128校	9,083人（88.2%）
学校	児童生徒への関わり方 指導方法	上記の全小・中学校	

※ ただし、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別
支学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒は除く

〈今年度の改訂点〉

- ① 対象学年を中学校第1学年から第2学年に変更した。（R3、4は参考値）
- ② 回答の入力は1人1台端末を活用して行った。

2 調査結果の概況

(1) 「子供の学びを支援する5つの提言」に関連する事項

<参考>子供の学びを支援する5つの提言

- ① 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。
- ② 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう。
- ③ 子供が様々な学び方を知り主体的に学習ができるように支援することで、学びに向かう力を育てましょう。
- ④ 自分の考えを発表したり、交流したりする活動を充実させることで、深い学びにつなげましょう。
- ⑤ 家庭学習の質的向上を図るとともに、読書の時間を増やす働き掛けをしましょう。

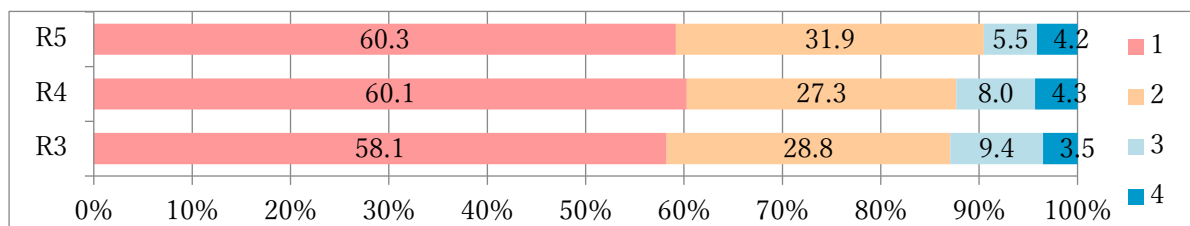
① 改善傾向が見られるもの

- 質問事項1「学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか」という質問に、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は昨年度よりも増加した。(①)
- 質問事項6「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」という質問に、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は昨年度よりも増加した。(③)
- 質問事項7「これまで受けた授業では、タブレットなどのICT機器をどの程度使っていましたか」という質問に、「ほぼ毎日」活用している児童生徒の割合は昨年度よりも増加した。一方、小学校では、「月1回未満」しか活用していない割合も増加するなど、活用頻度について、学校間のかい離が見られる。(③)
- 質問事項8「授業では、自分たちで課題を見付けて、解決するために情報を集め、話し合ったり、発表したりする学習に取り組んでいますか」という質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は小中学校とも8割を超え、昨年よりも増加した。(④)

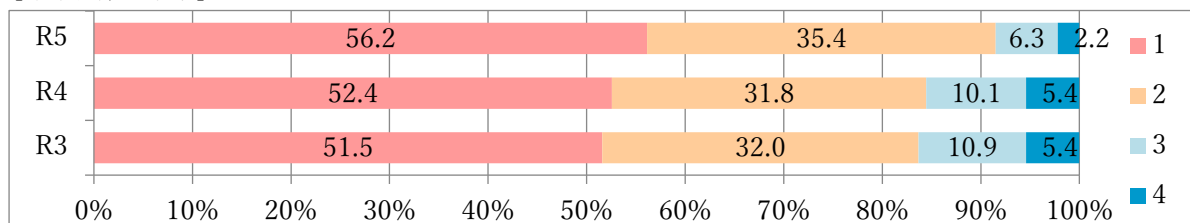
質問事項1「学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



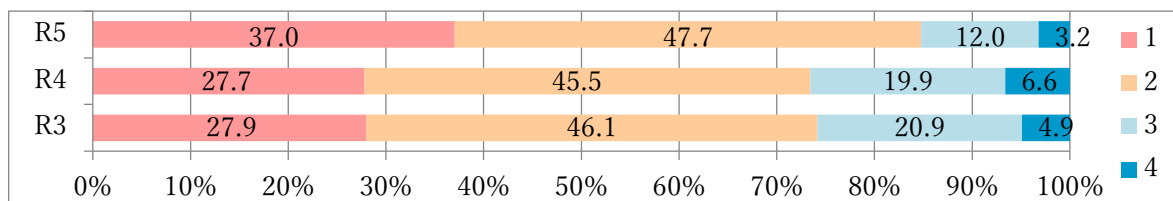
【中学校第2学年】



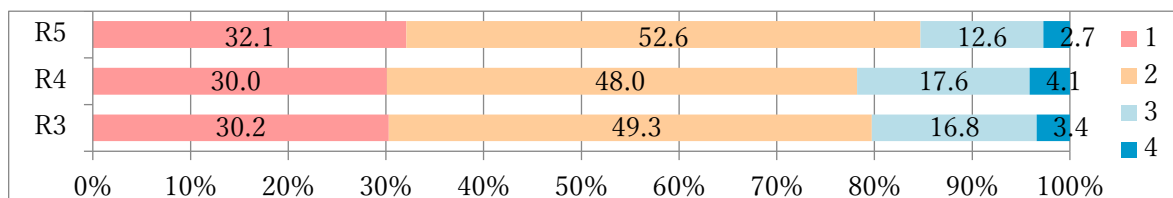
質問事項6 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



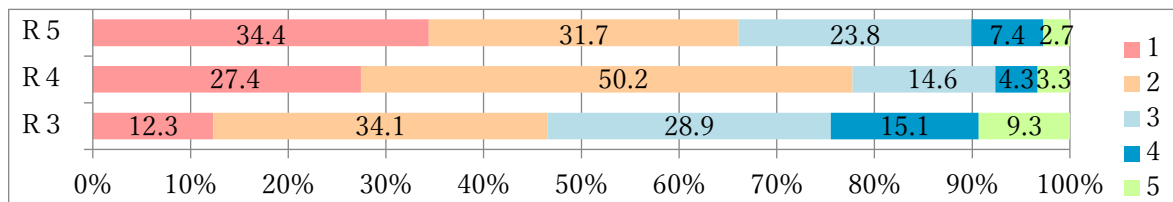
【中学校第2学年】



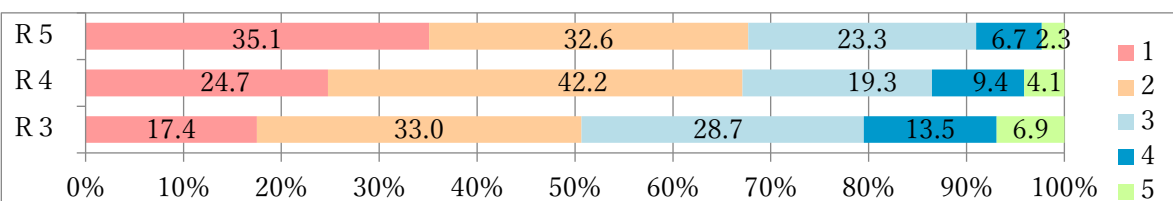
質問事項7 「これまで受けた授業では、タブレットなどの ICT 機器をどの程度使っていましたか」

《選択肢》 1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 月1回以上 4 月1回未満 5 その他

【小学校第5学年】



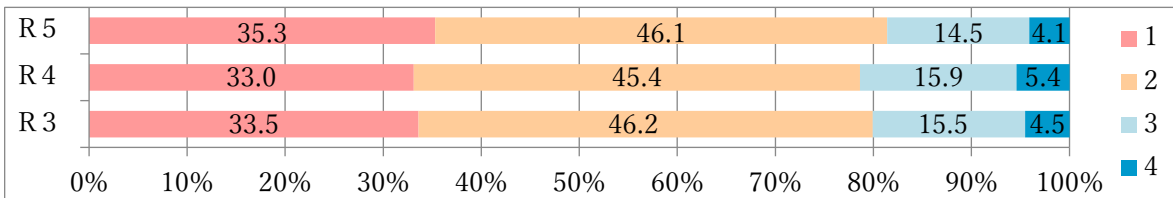
【中学校第2学年】



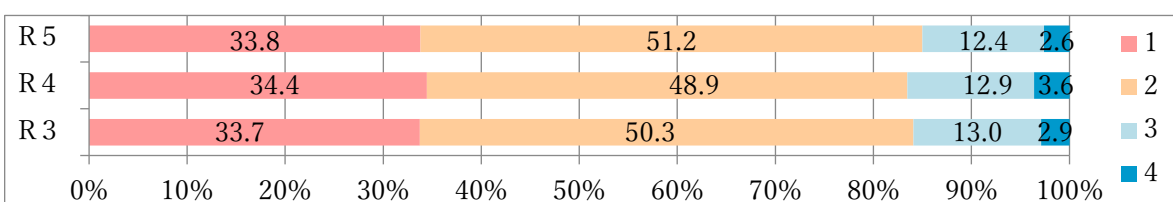
質問事項8 「授業では、自分たちで課題を見つけて、解決するために情報を集め、話し合ったり、発表したりする学習に取り組んでいますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】



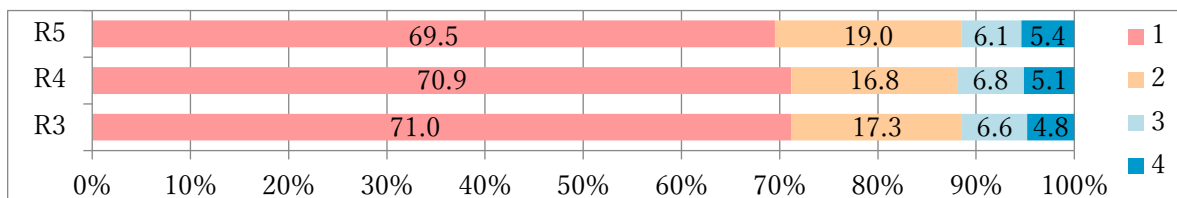
② 課題が見られるもの

- △ 質問事項3「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学校は昨年度よりやや増加しているが、小中学校ともに8割を下回っている。(2)
- △ 質問事項5「自分には、良いところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童生徒は、小学校は昨年度より増加したが、中学校では減少している。(2)
- △ 質問事項9「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、小中学校ともに「全くしない」と回答した割合が増加傾向にある。(5)
- △ 質問事項10「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)」という質問に対して、小5で2割以上、中学校で約1割が「全くしない」と回答している。(5)

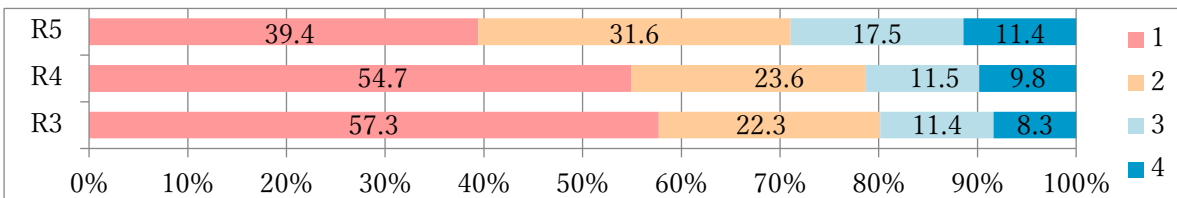
質問事項3「将来の夢や目標を持っていますか」

《選択肢》 1 持っている 2 どちらかといえば持っている
3 どちらかといえば持っていない 4 持っていない

【小学校第5学年】



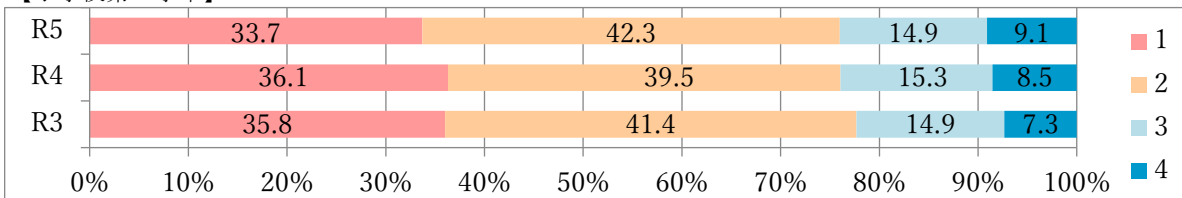
【中学校第2学年】



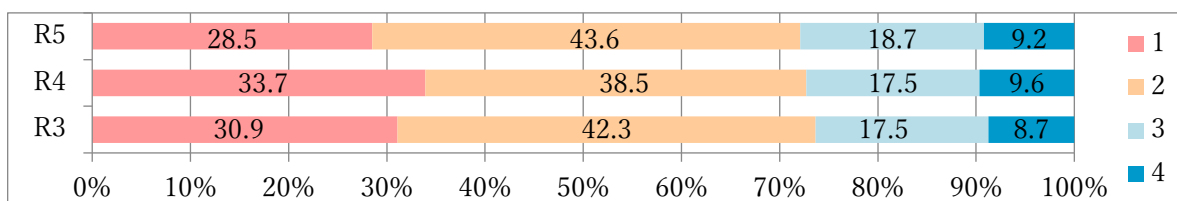
質問事項5「自分には、良いところがあると思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



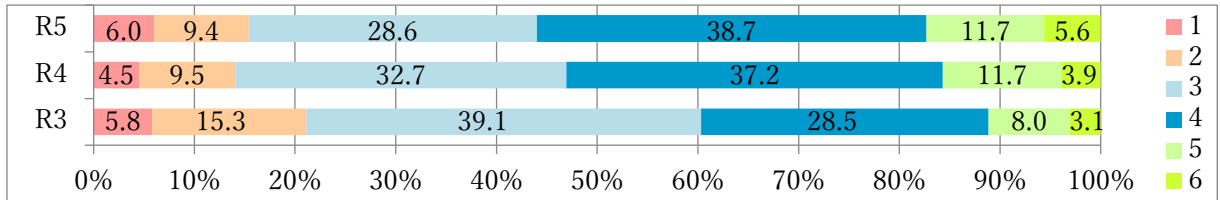
【中学校第2学年】



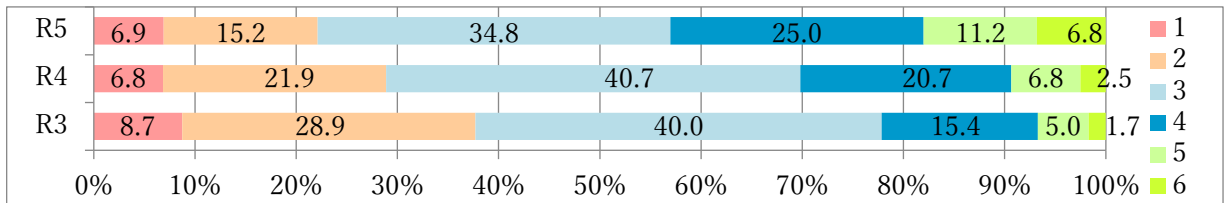
質問事項9 「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾や家庭教師、インターネットを活用した学習した時間を含む)」

- 《選択肢》 1 3時間以上 2 2時間以上3時間未満 3 1時間以上2時間未満
4 30分以上1時間未満 5 30分未満 6 全くしない

【小学校第5学年】



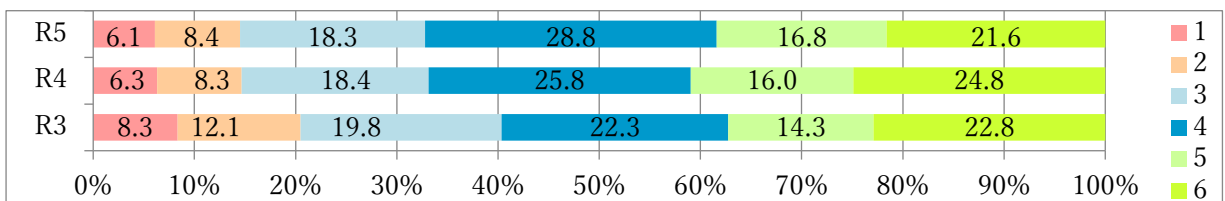
【中学校第2学年】



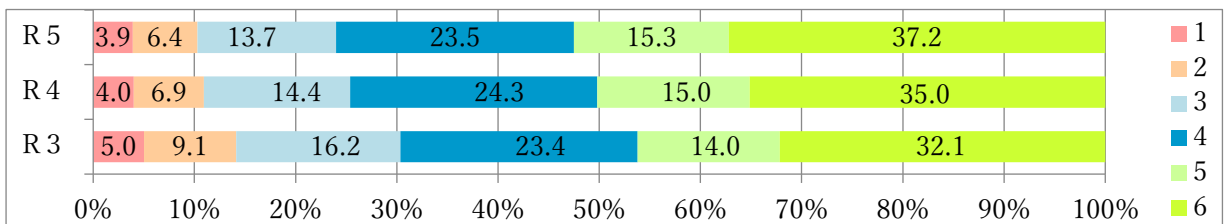
質問事項10 「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)」

- 《選択肢》 1 2時間以上 2 1時間～2時間時間以上 3 30分～1時間
4 10分～30分 5 10分より少ない 6 全くしない

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】



③ 児童生徒と学校の認識にかい離が見られるもの

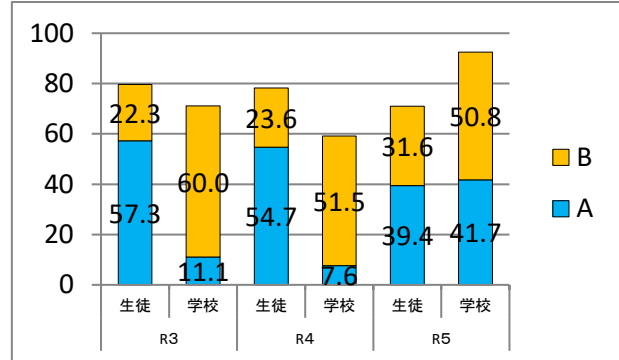
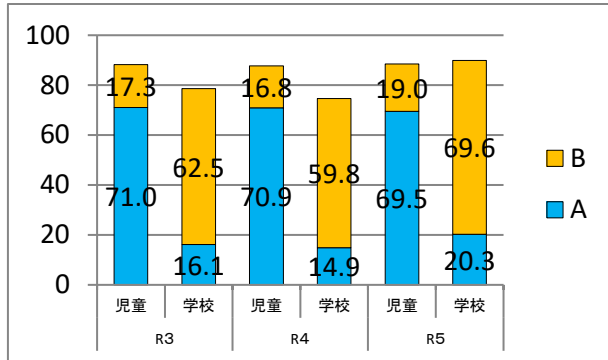
△ 「将来の夢」では、中学校において学校回答と生徒の回答にかい離が見られ、「家庭学習」では、学校回答と児童生徒の回答にかい離が見られる。

(児童生徒)「将来の夢や目標を持っていますか」

(学 校)「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか」

【小学校第5学年】

【中学校第2学年】



※A：当てはまる B：どちらかといえば当てはまる

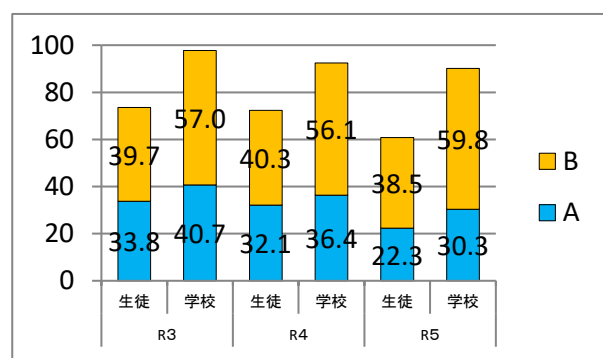
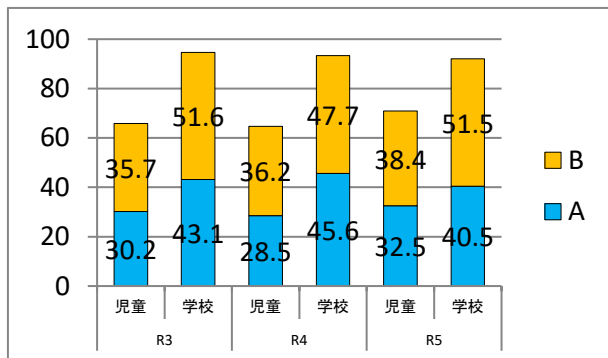
(児童生徒)「自分で計画を立てて勉強をしていますか」

(学 校)「児童生徒に対して、児童生徒自身が学びの計画を立て、主体的に家庭でも学習に取り組めるよう支援していますか」

「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えていますか」(R3、4)

【小学校第5学年】

【中学校第2学年】



※A：当てはまる B：どちらかといえば当てはまる

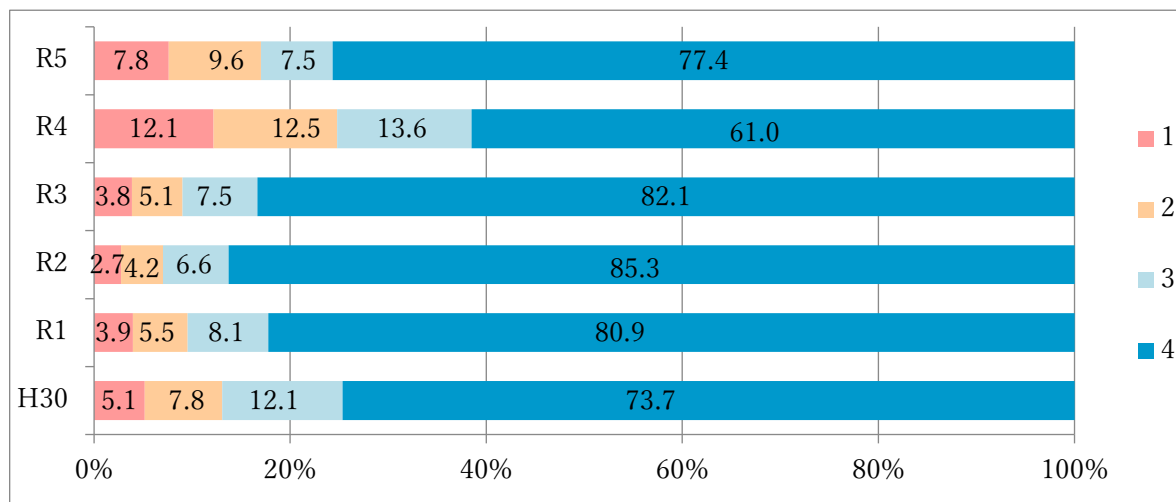
(2) 災害（地震・津波）の影響に関する事項

△ 質問事項13「災害（地震・津波）のことが思い浮かび、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している割合は、小学校で約17%、中学校で約5%となっており、共に減少傾向となっている。

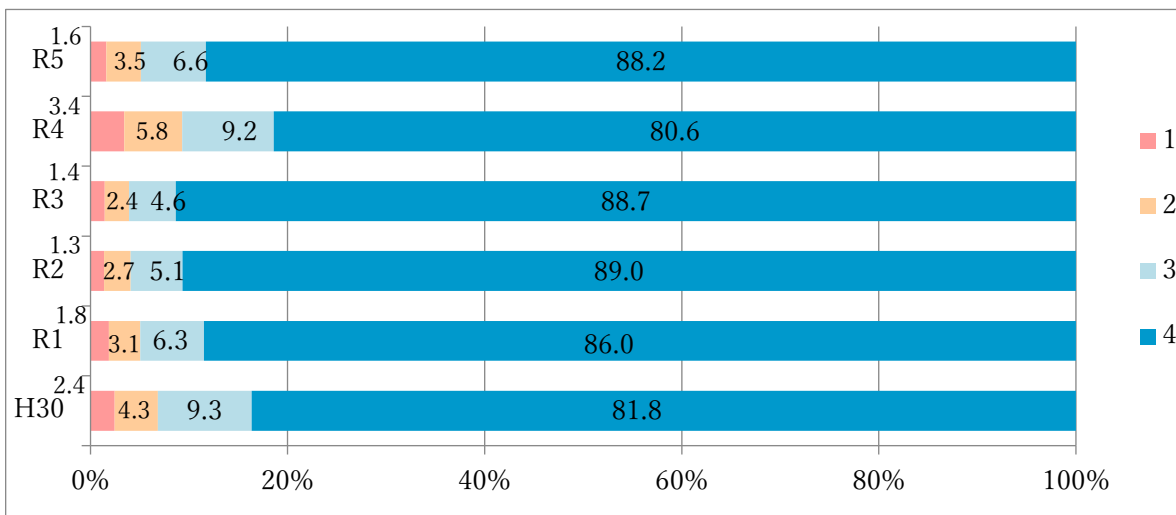
質問事項13「災害（地震・津波）のことが思い浮かび、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

《選択肢》 1 ある 2 どちらかといえばある 3 どちらかといえばない 4 ない

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】



(3) 基本的な生活習慣に関連する事項

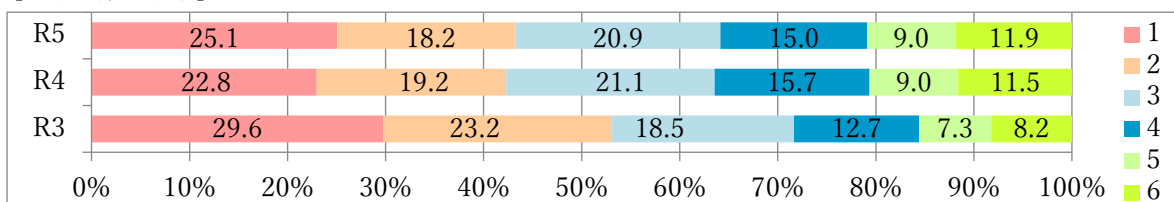
△ 質問事項19「平日に携帯電話やスマートフォンを勉強以外で2時間以上使っている」と回答している児童生徒の割合は、小学校では2割弱で横ばいだが、中学校では4割を超えるなど、増加傾向となっている。

△ 質問事項20「平日に1時間以上テレビゲームをしている」と回答している児童生徒の割合は、小学校では7割を超え、中学校でも7割弱となっている。また、小中学校ともに2割以上の生徒が「3時間以上」と回答し、増加傾向となっている。

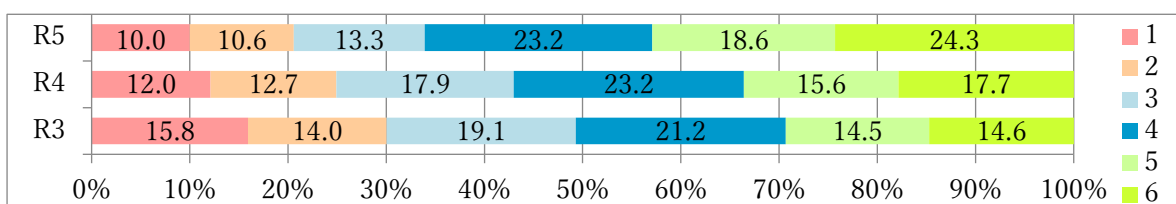
質問事項19「平日に、スマートフォン等を勉強以外で使う時間はどのぐらいですか」

《選択肢》 1 全く使わない 2 30分未満 3 30分以上1時間未満
4 1時間以上2時間未満 5 2時間以上3時間未満 6 3時間以上

【小学校第5学年】



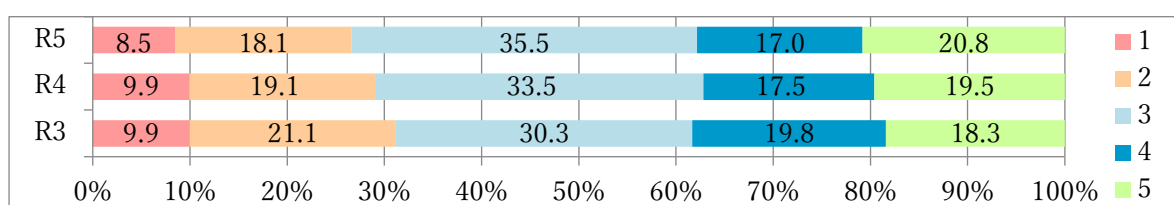
【中学校第2学年】



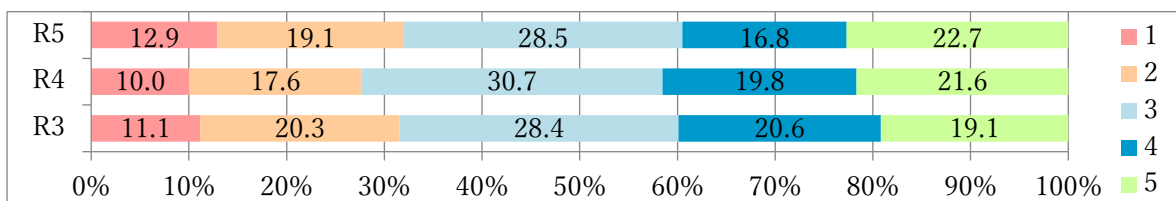
質問事項20「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマートフォン等を使ったゲームを含む）をしますか」

《選択肢》 1 全くしない 2 1時間未満 3 1時間以上2時間未満
4 2時間以上3時間未満 5 3時間以上

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】



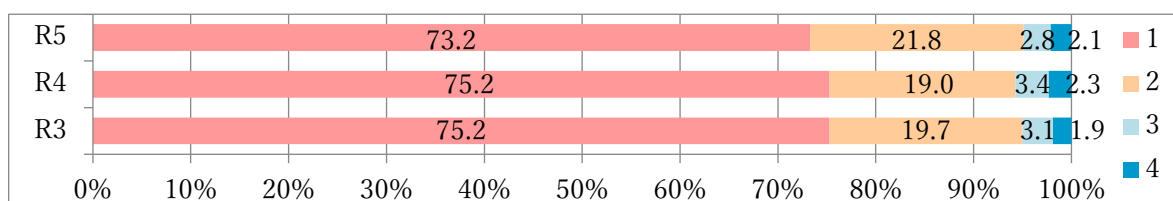
(4) 自尊意識・規範意識に関連する事項

- 質問事項 2 2 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒は昨年度とあまり変わらないが、継続して高い数値となっている。
- 質問事項 2 3 「人が困っているときは進んで助けていますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒は昨年度よりやや増加している。

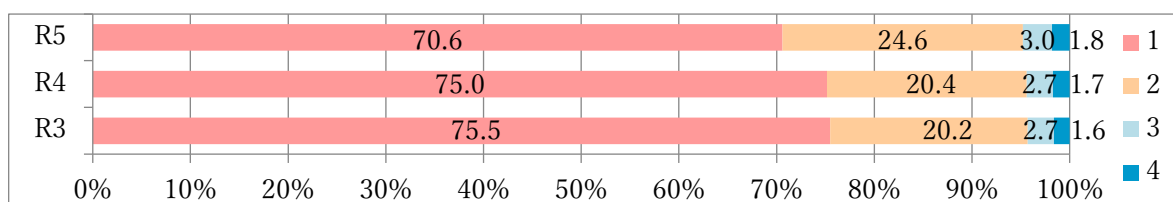
質問事項 2 2 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第 5 学年】



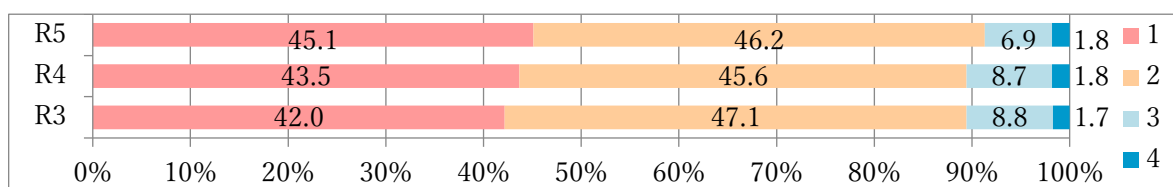
【中学校第 2 学年】



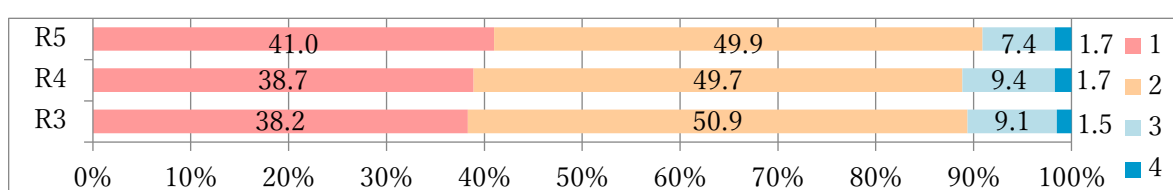
質問事項 2 3 「人が困っているときは進んで助けていますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない

【小学校第 5 学年】



【中学校第 2 学年】



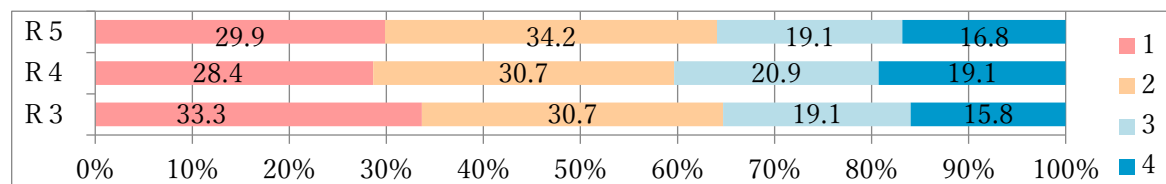
(5) 地域との関わり、ボランティア活動等に関連する事項

- △ 質問事項 2 4 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒の割合は昨年度と変わらない。
- △ 質問事項 2 5 「ボランティア活動（校内での活動も含む）に参加していますか」という質問に対して、小学校では、肯定的な回答は増加しているが、中学校では、減少している。

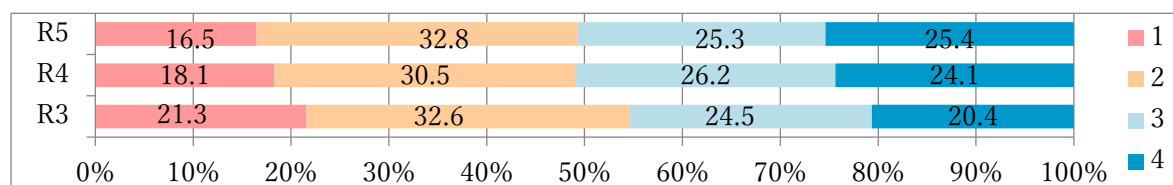
質問事項 2 4 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない

【小学校第 5 学年】



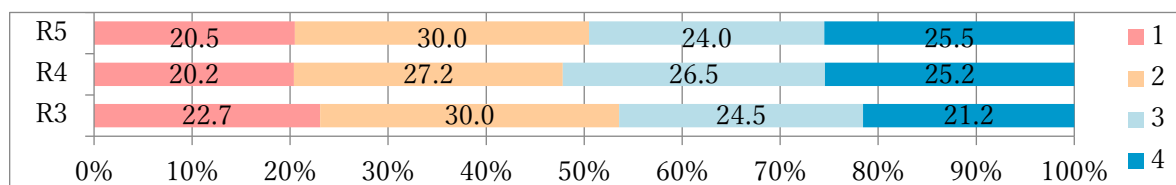
【中学校第 2 学年】



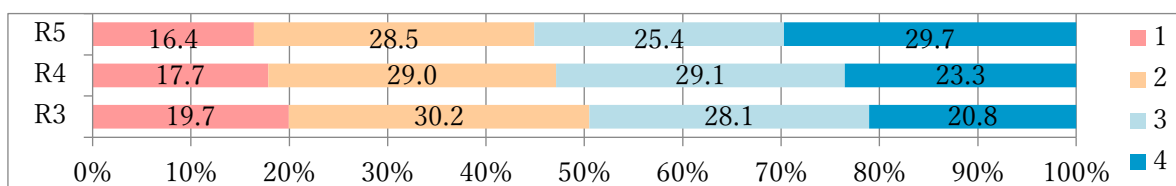
質問事項 2 5 「ボランティア活動（校内での活動も含む）に参加していますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない

【小学校第 5 学年】



【中学校第 2 学年】



3 今後の対応

調査結果の概況から、以下のような傾向が見られた。

- ・ 級友と協力して、やり遂げる喜びについて、肯定的な回答が増加している。
- ・ 課題解決に向けて、自分で考え、取り組むことについて、肯定的な回答が増加している。
- ・ 1 人 1 台端末を授業で毎日活用する頻度が小・中学校ともに増加しているが、小学校では、ほぼ使用していない回答も増加している。
- ・ 人が困っているときは進んで助けているという質問に対して、肯定的な回答をしている児

児童生の割合が高くなっている。

- ・ 平日、休日ともに家庭での学習時間が大きく減少している。
- ・ テレビゲームやスマートフォン等を使う時間が増加している。
- ・ 自尊意識がやや低い傾向にある。

これらの傾向を踏まえ、以下の点について取り組んでいく。

- みやぎ「魅力ある・行きたくなる学校づくり」事業で得られた知見を活かし、児童生徒が安心して学ぶための「居場所づくり」と「絆づくり」を推進する。
- 1人1台端末の積極的な活用を促すとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を支援し、その成果の普及・啓発を図る。
- 各学校や地域の実情に応じた「みやぎの志教育」の一層の充実を図る。
- 家庭における学習習慣の形成やメディアの適切な使い方について、各市町村教育委員会と課題を共有するとともに、家庭・学校・地域が連携・協働した取組の推進を図る。
- みやぎの志教育につながる「みやぎの学ぶ土台づくり」の普及・啓発を進め、非認知能力を高める幼児教育の推進と、保幼小の連携・接続のための取組の充実を図る。